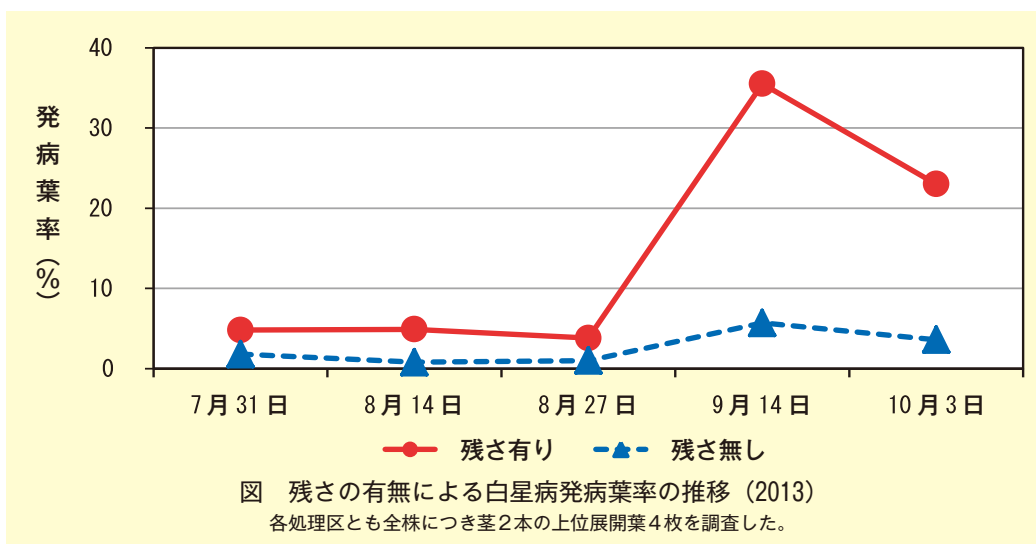


ショウガ白星病の土壌からの伝染

表 ポットの土壌に白星病罹病葉を混和した場合の発病						
処理区	ポットごとの白星病発病の有無					
	ポット1	ポット2	ポット3	ポット4	ポット5	ポット6
発病葉混和区	有	有	有	有	有	無
無処理区（混和なし）	無	無	無	無	無	無



写真 発病葉混和ポットで認められた白星病



ショウガ白星病は、葉に白い小斑点を生じる病害ですが、葉が枯れ上がるほど激しく発病する場合も見られています。本病の伝染源については十分解明されていませんので、今回、土壌からの伝染について、ポット試験とほ場試験で調査しました。

まず、いくつかのポットに殺菌した土壌を詰め、そのうちの半数には前年に白星病が発病したショウガの葉を細かく切って混和しました。これらのポットにショウガを植えて栽培したところ、発病葉を混和したポットでのみ白星病の発生が見られました（表、写真）。

次に、白星病が発病したほ場でショウガを収穫後、ほ場を2つに分けて、その一方のみ

ショウガの残さ（茎葉）をできるだけ取り除きました。翌年ショウガを栽培したところ、残さを取り除いた方では白星病の発病が少なく推移しました（図）。

これらのことから、前年の白星病の発病残さが土壌に残り、翌年の伝染源になっていることが明らかになりました。生長点付近で感染が起こることから、土壌中の菌が降雨などではね上げられて、生長点付近に付着しているものと思われます。

現在、土壌中の伝染源を効果的に減少させる方法について検討を行っています。

（病理担当 森田泰彰 088-863-4915）